

令和6年度 赤穂市学校(園)評価報告書

学校園名 | 赤穂市立赤穂西小学校

1 本年度の学校(園)経営方針

「『豊かな心』と『確かな学力』を身につけ、夢に向かって進んでいく児童の育成」の学校教育目標のもと、個別最適な学び・協働的な学びとその住還から、自ら学ぼうとする児童の育成を図ると共に、互いの個性を認め合い、共に伸びていこうとする仲間づくりを推進する。また、「地域に愛され 地域と共に創る学校」を目指し、コミュニティ・スクール活動を推進すると共に、ふるさとを大切にすることを児童の育成を図る。

2 本年度の学校(園)重点目標

- (1) 豊かな心の育成
- (2) 確かな学力の育成
- (3) 健やかな体の育成
- (4) ふるさとを愛する心の醸成
- (5) 働きやすい職場づくり
- (6) 保護者や地域に信頼される学校づくり

総合的な学校園関係者評価

・経営方針・重点目標に沿って教職員の皆様方の努力と全力投球の姿に、赤穂西小学校って素晴らしいなと肌で感じる。また、小規模校の良さが、教職員の努力で十分に発揮されている。  
・学校側の遠慮気味の評価が気になる。世情が保護者・地域への配慮を重視せざるを得ないという傾向が顕著なところで、学校が家庭の教育も担っている感がある。  
・目標は小規模校の特色を身につけることなので、シンプルなわかりやすい目標を立て実践を行っていくことが必要である。  
・先生方は常に最善の方法を模索しながら頑張っている。それを保護者と共有していくことが必要である。  
・先生達は頑張ってくれていると思います。なかなか改善が難しいと思いますが、引き続き頑張ってもらいたいと思います。  
・保護者や児童からの要望に対して様々な対応をしてくださっていることが伝わってきて有り難く感じている。ただ対応が、後手後手になっているように感じる。細かな対応策や報告をこまめにいただき、学校の努力が伝わるような工夫が必要である。  
・学校が積極的に地域に関わろうとしている姿が良かった。今後も継続して行ってほしい。  
・学校・保護者・地域でもっと良い赤穂西小学校にしていきたいです。  
・経営方針は素晴らしい。ゲストティチャーや企業での理科授業は良い取組である。  
・西小フェスティバルでの子ども達の姿が頼もしかった。少人数のよさを見せていただくことができた。挨拶もよくできている。  
・少人数の良さを生かした教育はできている。地域とのつながりを親も先生も大切にし、協働していけるとよい。  
・児童のことばかりに目が行きがちだが、職員同士はどうですか。職員室の雰囲気为学校の雰囲気をづくりそれによって子ども達が良くも悪くもなるように思います。  
・子ども達が自由にのびのびしているのはとても良いですが、緊張感がなくなりすぎなような気がします。少人数で低学年から高学年まで顔見知りという環境は、中学での部活廃止の時代にはとても大事な縦のつながりになってくると思います。その利点をいかした取組をもっと増やせるとよいと思います。

3 自己評価結果 (A～D) A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

学校園関係者評価

◎：適切である ○：ほぼ適切である △：あまり適切でない ×：適切でない

| 観 点<br>(重点目標) | 評 価 項 目 (学校園・教師の取組)<br>評 価 指 標 および 目 標 値 (期待される姿)                                                 | 評価資料                                   | 達成状況 | 改善の方策                                                                                                                                                                                                            | 自己評価<br>は適切か | 改善方策<br>は適切か | 課題と来年度具体的改善方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 豊かな心の<br>育成   | 項目 特別な支援を要する児童について全職員で共通理解し、目標を立てて指導・支援を行っているか。<br>指標 教職員と特別な支援を要する児童が目標を共有し、達成に向けて取り組んでいる。       | 児童の様子<br>個別の指導計画<br>特別支援教育校内委員会        | A    | ・道徳的な価値について学んだことを日常生活に生かすことができていない。児童の心を育てるために、学校と保護者の連絡を密にし信頼関係を深め足並みを揃え、価値観を共有し、共通理解をもって、児童の指導にあたるようにしていく。また、職員間においても情報を共有し、共通理解を図り児童の指導にあたるようにしていく。さらに、学級活動の実践を重ね、道徳で学んだことの実践の場としていく。                         | ○            | ○            | ・指導に当たっては優しさが重視されるが、指導には、厳しさも重要な要素なので随所に積極的に取り入れてほしい。<br>・小さなトラブルでも児童へのフォローや保護者へのその都度の連絡はお願いしたい。<br>・保護者や児童の中には「学校に伝えても変わらないので言わない」といった意見がある。改善策で示された道徳教育の積み重ねや、保護者と学校との連絡を密にし、対応した際は事後の報告をすることによって、改善をお願いしたい。<br>・支援を必要とするお友達と常に関わりを持ち思いやりや優しさが自然と身につく環境であると思うが、それが難しいのはどうしてなのか不思議に思う。<br>・学校と保護者の距離を近づけるために、更に具体的な案が必要である。<br>・具体的な改善策が見つけられていないように感じる。問題行動のある子をあえてリーダーにして、何か取組を試みるのはどうだろう。<br>・子ども同士でのトラブルを見ているだけの子たちも心に傷を負うことがある。少人数のメリットとして子どもから言いに来る子だけではなく、幅広くケアしてあげてほしい。<br>・親として知らないことが多すぎる気がする。周りから聞くとよくないように伝わってくる。伝えるべきことを伝えてないように感じている。そこを改善してほしい。                          |
|               | 項目 人権教育を推進し、児童の居場所づくりと、互いの個性を認め合える態度を育成することができている。<br>指標 児童は、明るくいきいきと学校生活を送っている。自己有用感・自尊感情が育っている。 | 児童の様子<br>自分見つけアンケート                    | B    | ・道徳的な価値について学んだことを日常生活に生かすことができていない。児童の心を育てるために、学校と保護者の連絡を密にし信頼関係を深め足並みを揃え、価値観を共有し、共通理解をもって、児童の指導にあたるようにしていく。また、職員間においても情報を共有し、共通理解を図り児童の指導にあたるようにしていく。さらに、学級活動の実践を重ね、道徳で学んだことの実践の場としていく。                         |              |              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|               | 項目 道徳教育の充実を図り、考え議論する道徳の時間の充実に努めているか。<br>指標 児童は、道徳的諸価値について理解し、考えを言語化して伝え合い、深めている。                  | 児童の様子<br>自分見つけアンケート<br>道徳ノート           | C    | ・道徳的な価値について学んだことを日常生活に生かすことができていない。児童の心を育てるために、学校と保護者の連絡を密にし信頼関係を深め足並みを揃え、価値観を共有し、共通理解をもって、児童の指導にあたるようにしていく。また、職員間においても情報を共有し、共通理解を図り児童の指導にあたるようにしていく。さらに、学級活動の実践を重ね、道徳で学んだことの実践の場としていく。                         |              |              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|               | 項目 いじめ・不登校問題について全職員で共通理解し、組織的、積極的な対応をしているか。<br>指標 児童・保護者は、悩みやしんどさを学校や関係機関に相談している。                 | 児童の様子<br>いじめ・不登校対策及び生活指導委員会<br>月1アンケート | B    | ・道徳的な価値について学んだことを日常生活に生かすことができていない。児童の心を育てるために、学校と保護者の連絡を密にし信頼関係を深め足並みを揃え、価値観を共有し、共通理解をもって、児童の指導にあたるようにしていく。また、職員間においても情報を共有し、共通理解を図り児童の指導にあたるようにしていく。さらに、学級活動の実践を重ね、道徳で学んだことの実践の場としていく。                         |              |              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|               | 項目 目標を明確にし、特別活動を要としつつ教育活動全体を通してキャリア教育に取り組んでいるか。<br>指標 児童は、自己の将来像を描き、学ぶことや働くことの意義・役割を理解している。       | 児童の様子<br>キャリア・パスポート<br>キャリアノート         | C    | ・道徳的な価値について学んだことを日常生活に生かすことができていない。児童の心を育てるために、学校と保護者の連絡を密にし信頼関係を深め足並みを揃え、価値観を共有し、共通理解をもって、児童の指導にあたるようにしていく。また、職員間においても情報を共有し、共通理解を図り児童の指導にあたるようにしていく。さらに、学級活動の実践を重ね、道徳で学んだことの実践の場としていく。                         |              |              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|               | 項目 基礎・基本の力の定着と向上のため、適切な指導・支援を行っているか。<br>指標 児童は、学年相応の計算・漢字を8割以上習得している。                             | 児童個人カルテ<br>テスト<br>学習成果物                | C    | ・道徳的な価値について学んだことを日常生活に生かすことができていない。児童の心を育てるために、学校と保護者の連絡を密にし信頼関係を深め足並みを揃え、価値観を共有し、共通理解をもって、児童の指導にあたるようにしていく。また、職員間においても情報を共有し、共通理解を図り児童の指導にあたるようにしていく。さらに、学級活動の実践を重ね、道徳で学んだことの実践の場としていく。                         |              |              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 確かな学力<br>の育成  | 項目 児童の「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業の創造に努めているか。<br>指標 単元・授業の中に、児童の個別最適な学び・協働的な学びが見られる。                      | 研究授業<br>研究テーマシート<br>児童の様子<br>学習成果物     | C    | ・漢字学習に関して、前学年の習得率が低いという現状がある。短期記憶を長期記憶にしていいため、文章の中で活用させ定着を図っていく。またVUCAと言われるこれからの時代に生きる児童に必要な基礎基本の力とは何なのかについて職員研修を行っていく。<br>・小規模校の特色を生かした指導方法の工夫をより進めていくため職員研修を行い、主体的・対話的に取り組めるよう学習内容を精選し、児童が試行錯誤しながら学ぶ機会を増やしていく。 | ○            | ○            | ・人生で一番時間を費やすのが話すこと、次に聞くこと、次に読むこと、次に書くことである。書くことについては、常に使わないと書けなくなるため、覚えた漢字は日々書くことを進めていただきたい。<br>・児童全員が健康で明るく生き生きと学校生活が送れることが一番である。<br>・少人数のメリットを生かし、レベルアップにつながっている。<br>・学力は個々の能力にもよるが、少人数の良さである個に寄り添った教育ができれば良い。<br>・小規模校の特色といっても、様々なものがある。分かりやすく具体的に明確な指標を設定し取り組んでほしい。<br>・タブレットが遊び道具となり、宿題はついでのように見受けられる。タブレット学習を取り入れたことで学力が落ちたという意見も聞く。利用方法の徹底や、授業ではタブレット、宿題は紙のドリルといった棲み分けを行ってほしい。<br>・短縮日課が学力低下へとつながらないようお願いしたい。<br>・宿題などで漢字を書く回数が少ない。繰り返し学べる指導が必要である。<br>・漢字を繰り返し書くことが減っている。漢字をノートに1ページ書くというのは、積極的にしてもよいと思う。<br>・大きな声で本を読んだり、ノートに書く、まとめる、読み返す取組を推進する。(遊んでいる時と授業中の声が逆・タブレットに頼りすぎている) |
|               | 項目 ICTを効果的に活用した学習活動の推進に努めているか。<br>指標 児童は、クラスルーム・スクールタクト・デジタルドリル等を使って学習している。                       | 市内活用状況表<br>研究授業<br>ICT研修               | B    | ・漢字学習に関して、前学年の習得率が低いという現状がある。短期記憶を長期記憶にしていいため、文章の中で活用させ定着を図っていく。またVUCAと言われるこれからの時代に生きる児童に必要な基礎基本の力とは何なのかについて職員研修を行っていく。<br>・小規模校の特色を生かした指導方法の工夫をより進めていくため職員研修を行い、主体的・対話的に取り組めるよう学習内容を精選し、児童が試行錯誤しながら学ぶ機会を増やしていく。 |              |              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|               |                                                                                                   |                                        |      |                                                                                                                                                                                                                  |              |              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |

| 観 点               | ----- 評 価 項 目 -----<br>----- 評 価 指 標 および 目標値 -----<br>(期待される姿) |                                                                                              | 評価資料                               | 達成状況 | 改善の方策                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-------------------|----------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 健やかな体の育成          | 項目<br>指標                                                       | 体育・保健学習の改善・充実を図り、日常的な運動や遊びによる体力づくりに努めているか。<br>児童は、「全員遊び」、「なかよし遊び」、縄跳びやマラソン等に積極的に取り組んでいる。     | 児童の様子<br>体育・保健学習の振り返り<br>縄跳びがんばり表  | B    | ・生活習慣の乱れから、授業に集中できない児童に対し「早寝早起き朝ごはん運動」で、保護者にも啓発してきた。改善は見られにくいが、今後も啓発を続けていくことと個別面談で話題として取り上げ改善を目指す。<br>・学級経営の目標に体力づくりを位置づけ、年間を通してなわとび運動に取り組む。<br>・ストレスをためこまずに上手に発散したり、思考を変えたりすることができるように、マインドフルネス瞑想を取り入れていく。                                                                |
|                   | 項目<br>指標                                                       | 健康や安全面の充実が図られるように努めているか。<br>児童は、自分の体や健康について理解し、感染症対策等自己の健康管理に取り組んでいる。                        | 児童の様子<br>保健学習の振り返り<br>生活表          | B    |                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|                   | 項目<br>指標                                                       | 家庭と一体となった生活習慣の改善と確立に努めているか。<br>児童や保護者は、「早寝・早起き・朝ごはん」運動に積極的に取り組んでいる。                          | 児童の様子<br>早寝・早起き・朝ごはん表<br>保護者アンケート  | B    |                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| ふるさとを愛する心の醸成      | 項目<br>指標                                                       | 地域での体験活動や、保護者や地域の方との交流を取り入れたコミュニティ・スクール活動の推進に努めているか。<br>児童は、地域での体験活動や、保護者・地域の方との交流を通して学んでいる。 | 児童の様子<br>生活・総合等での振り返り<br>学校・学年だより  | B    | ・生活や総合の学習で地域教材を各学年に取り入れ、地域について学習を進めている。地域の方のゲストティーチャーも年々増え、地域の方と一緒に学びを深めることで、地域に愛着をもてるようになってきている。今後も継続して取り組んでいく。<br>・西小フェスティバルで地域の人や保護者、子ども達が交流する姿を見て、どの学校にもない西小学校の特色ある活動だと改めて感じた。今後も継続して取り組んでいく。                                                                          |
|                   | 項目<br>指標                                                       | 地域・家庭・校園所と密接に連携をとり、よりよい教育活動を行うよう努めているか。<br>児童は、「さんぽ・一声運動」や「あいさつ運動」の趣旨を理解し、地域の方に挨拶している。       | 児童の様子<br>生活表<br>あいさつ運動<br>保護者アンケート | B    |                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 教職員が働きやすい職場づくり    | 項目<br>指標                                                       | 業務改善の推進に努めているか。<br>教職員は、業務改善推進委員会を定期的に実施している。定時退勤日・ノー会議デーを実施している。                            | 教職員の様子<br>業務改善推進委員会<br>記録簿         | B    | ・職員会議の資料ペーパーレスなど、職員の意見を取り上げながら業務改善が進んでいる。また、事務室の文具コーナーや湯茶コーナーなど工夫された取り組みで、職員が気持ちよく働きやすい環境に常に改善されている。自分たちの職場を自分たちで、よりよくしていく取組を今後も進めていく。                                                                                                                                     |
|                   | 項目<br>指標                                                       | 教職員の協働体制が確立されているか。<br>教職員は、学校行事、研究推進等円滑な学校運営のため、協力して機動的に対応している。                              | 教職員の様子<br>業務改善推進委員会<br>記録簿         | B    |                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 保護者や地域に信頼される学校づくり | 項目<br>指標                                                       | 教職員の資質向上と互いに学び合う教師集団の育成に努めているか。<br>教職員は、研究主題に向かって、計画的に研究授業や研修会を実施している。                       | 研究授業<br>研修会<br>研究テーマシート<br>ふりかえり   | B    | ・「地域や保護者に普段の授業の様子を気軽に伝えるものにしていく」取組を実施し、HPでの情報発信や学年だよりブロック通信等を通して、主体性を育むための取組（算数・特別活動）豊かな心を育成する取組（道徳）などで情報発信を行った。来年度は、保護者、学校、地域が足並みをそろえて、児童の指導にあたるということを意図した情報発信に取り組んでいく。<br>・朝の会の間に地震が起きることを想定した避難訓練や予告なしの避難訓練、避難後に屋上に2次避難を行うなど実践的な避難訓練を行ってきた。南海トラフ地震を想定し、来年度も避難訓練を実施していく。 |
|                   | 項目<br>指標                                                       | 学校評価を活かした教育活動の改善に努めているか。<br>学校は、学校評価結果や改善方法について、学校運営協議会・HP等で説明している。                          | 学校評価<br>学校だより<br>学校運営協議会<br>HP     | B    |                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|                   | 項目<br>指標                                                       | 施設環境の整備・危機管理体制の確立に努めているか。<br>教職員は、安全点検を月1回実施したり、危機管理マニュアルに基づいた訓練を実施したりしている。                  | 危機管理マニュアル<br>安全点検簿<br>訓練           | A    |                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|                   | 項目<br>指標                                                       | 地域・保護者への積極的な情報発信に努めているか。<br>学校は、通信やHPを定期的に発行し、学校の様子や考えを伝えている。                                | 学校・学年だより<br>HP<br>メール              | A    |                                                                                                                                                                                                                                                                            |

| 自己評価は適切か | 改善方策は適切か | 課題と来年度具体的改善方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|----------|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ◎        | ◎        | ・生活習慣の乱れは保護者の頑張りが必要である。<br>・保護者にも家庭で子どもを見守るためのチェックリスト等で問題点を顕在化することで、より一層の充実を図ることができる。<br>・児童も大人も（ストレスを全くなくすのではなく）ストレスと共存していくことが重要である。<br>・朝ご飯をしっかり食べ体を動かす。<br>・地域のスポーツイベントにも参加してくださいね。<br>・「継続は力なり」かと思えます。<br>・早寝早起き朝ごはんの取組は目に見える改善はなくても、繰り返し啓発していくことできっかけになったり、気づきになったりと心にとどまっていくことにつながる。<br>・スマホ、ゲーム機をいじる時間が長い。<br>・マインドフルネスをぜひすすめてほしい。 |
| ◎        | ○        | ・児童は楽しい経験をするのが大好き。教えてもらったり、自分たちで考えた遊びを地域の人達ともできるフェスティバルは良いと思う。<br>・納涼夏休み、秋祭り、スポクラ21、元旦登山、ふるさと祭りなどの地域行事に、親が進んで参加する。<br>・地域の中で多くの学びができていることはとても良い。ただ、それは一部の方々にとどまっており、もっと多様多様な方々と一緒に何かができたらと思う。コロナ前にしていた運動会は良かった。<br>・挨拶が自分から積極的にできている児童は少ない。                                                                                               |
| ○        | ○        | ・職員の満足感が得られる学校づくりをしてほしい。<br>・課題がある児童を担当する先生は、他の先生と比べかなりの時間と労力を使ってくれていた。様々な先生が助けに入っているようになっていが、児童だけでなく担任のためにも、早期の介入が必要だと感じた。<br>・定期的な話し合いは良い。<br>・先生の仕事改善が良いが会社員とは仕事内容が違うと思う。<br>・働きやすい職場づくりにおいて、枠組みばかりに目がいつているように感じる。ペーパーレス、事務室・湯茶室の取組も大事かもしれないが、職員同士のコミュニケーションの方がもっと大事だと思う。何でも話し合える環境、相談できる環境が一番大事で、皆が同じ方向をむいて取り組めたら良いのではないかなと思う。        |
| ◎        | ○        | ・保護者との信頼関係を大切にしてほしい。<br>・にしいろ日記は続けてほしい。<br>・情報発信はよくできている。<br>・にしいろ日記や学年だよりなどで、子ども達が今何をしているかなど写真もあり、すごく分かりやすく見せてくれて感謝しています。今後も続けていただけると助かります。<br>・学校便りと良い学校だと思うが、小規模校のデメリットについては改善が必要である。                                                                                                                                                  |

#### 自己評価における特記事項

・様々な地域の方に教育にたずさわってもらい、地域の方の協力の下学習を進め、学校だけでなく地域で子どもを育てていく体制が整いつつある。しかしながら、子ども達にとって一つ一つの活動は、それぞれが独立した点でとどまっている。それらをつなぎ線にし、さらには面にしていくためには、書く活動を通して活動の振り返りを丁寧に行ったり、教師が点をつなぐ声かけを行ったりする必要がある。

・主体的な学びの実現には、児童自ら課題を設定し、協働しながら学習していくことが求められる。低学年のとびはこ遊びでは、様々な場をつくり子ども同士で遊び方を伝え合う活動を設定することで、主体的に運動を楽しむことができていた。今後も課題を設定したり、場を工夫したりするなど、児童が授業の中で自己決定する機会を増やしていく必要がある。また、支援を必要とする児童が増えており、一斉授業を受けづらい児童もいる。個別最適な学びの充実に向けた取組を進める必要がある。さらに、学習していくためには、子ども同士の関係をつないでいくことが必要である。来年度の特別活動研究大会に向けて、子ども同士の関係の再構築を図っていきたい。

・健やかな体の育成において遊びは重要である。今年度は、昼休みに、たくさんの職員が外に出て子どもたちと一緒に体を動かす素敵な姿が多く見られた。また、遊び係を中心に児童が主体的に、異学年で全員遊びを実施している学年もあり、活動の振り返りを生かし、次の全員遊びを計画することも行っていた。来年度は異学年での遊びや学生ボランティアの派遣を依頼など、多様な他者とふれあいながら遊ぶ機会を増やしていきたい。

・職員の働きがいは、子どもや保護者、地域の方々など人と人とのつながりの中で、誰かの役に立っているときや自分の成長が実感できるときに得られる。来年度はつながりを密にし、より働きがいのある職場づくりを進めていきたい。また、うまくいっているときに、どうしてうまくいっているのかについて考えたり聞いたり、なぜ大変な状況なのに頑張れるのか考えたり聞いたりすることを重ねていき、前向きに働くことができる職場づくりを行っていきたい。

#### 項目以外の点での来年度の課題や具体的改善方法

・芸能でもスポーツでも何か一流のものに触れる機会が増えれば良い。

・先生方はよく頑張っている。今年の一部の児童の行動に先生も児童も振り回されていた。みんなを平等に扱うことも大切でだが、普通に学校生活を送りたい児童の権利も大切にしていあげてほしい。そのためにも、トラブルはできる範囲で公にして、保護者や地域の方の意見も取り入れながら解決していくとよい。

・小規模校の良さを再度見直してほしい。

・学年を越えて遊び、縦のつながりができることが小規模校のメリットなので、縦割り班で協力して考え、行動できるようなユニバーサルスポーツを地域も巻き込んでできたら良いと思う。

・地域の年配の方々や若い世代のギャップを感じる。PTAの皆さんはどう思っているのか、学校側と保護者との話し合いがあってもよいかもしれない。

・リーバーで届くおたよりですが、子どもにもプリントアウトしたものを配ってほしい。QRコードがついているものなどはプリントで届くほうが助かりますし、協議会で配られたものの中で、リーバーで届いていないものもあったので、2重チェック的に中学校のようにプリントとリーバーでのお知らせが助かる。学年だよりで写真ののっているプリントアウトしているが、家庭によってはできない人もいると思うので、プリントで配られるとうれしい。